CORE Metadata, citation and similar papers at core.ac.uk

最近のファッション・トレンドについて

阿　部　邦　子
（被服構成学研究室）

The Latest Trend in the World of Fashion Today

Kuniko ABE

Ⅰ　序　　論

服装は流行にとらわれず、自分の個性をいかし，各自の美しさを表現するという傾向になってきた。しかし，10年前の服を取出してみると気恥ずかしくて着られないような超ミニだったり，周囲との違和感のために着ることに抵抗を感じたりすることがある。このように大多数の人は無意識のうちに，その流行に影響を受けていることに気がつく。そのモードの主流，根源となるのはやはりオートクチュールの歴史の長いパリであるが，他の欧米諸国，ことにロンドン，ローマ，ミラノ，ニューヨークなど，それに歴史は浅いが急激にそれに追いつきつつある東京コレクションもこれに加わり，世界の流れをつくっていると思われる。ファッション界も，他の世界のおもな国に市場を広げ，互いに交流が盛んになっているので，近年その傾向は次第に平均化してゆく。その中からめだったファッションの流れ，国による特色などをひろってみたいと思う。

Ⅱ　本　　論

パリのオートクチュールは，ある限られた顧客相手の高級注文服を製作し，世界のモードをリードする役も担ってきた。しかし，ここ数年来の不景気に加え，石油危機，電気，ガスの使用制限もさらに深酷になり，オートクチュールをやめてプレタポルテだけに切り変えるクチュリエもあり，残ったメゾンもアラブを中心とする産油国の金持や，一定の固定客がなければ経営がなりたちにくくなってきた。

ローマでは雇用者の賃金闘争があったり，ヴァレンチノがオートクチュール協会を脱退したり，製作を中止するデザイナーがでてくるなど，暗いムードが漂っていた。しかし，ふたをあけてみると，これら不景気な噂とは裏腹に非常に豪華なものもあり，シックな感覚が強調された落着いた雰囲気であった。

ニューヨークは，ヨーロッパにくらべて歴史の浅さに対するコンプレックス，民主主義を称えながら人種差別の著しい国であるという矛盾などのため，なんとなくヨーロッパに押され気味の感があった。しかし，燃料不足やインフレの問題をかかえながらも，今のところ革命もなく最も安定した都市といわれるようになり，外国からの芸術家の亡命，アラブ諸国やイタリアの金持の移住などにより華やかになってきた。ニューヨークファッションは，雑多な民族のぶつかりあうバイタリティとエネルギーが底にあり，ことに働く女性のための機能的な美しさが特色である。

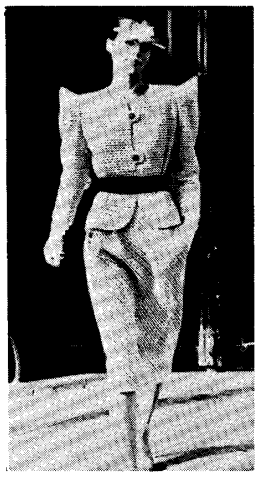
パリオートクチュールコレクションには日本の森英恵，高田賢三，三宅一生，やまもと寛斎，プレタポルテではこの他に君島一郎，芦田淳，鳥居ユキ，コシノ・ジュンコらもイタリアのヴァレンチノなどとともに参加している。

反対に東京コレクションには，カルダン，ディオール，ギ・ラロシュ，ジバンシィ，サン・ローラン，バルマン，ニナ・リッチ，エマニュエル・カーン，ヴァレンチノらが参加し，景気の好転しつつある国として欧米諸国はもちろん，ファッションの本場フランスでも日本への売込みに非常に力を注いでいる。

ニューヨークファッションがパリのプレタポルテに影響を与え，また，ニューヨークの中心街にはイタリアやフランスのブティックが軒を並べている。

このようにして平均化した世界のモードの中から，その流れ，特色を具体的にあげると次のようになる。

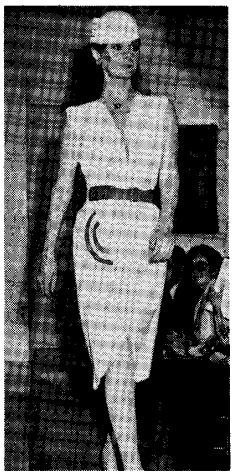
第1図
「パコダ」の肩[1)]



第2図
煉瓦を入れたような肩[2)]

第3図
ドレープで強調した肩[3)]

第4図
Vネックのドレス[4)]



1．レ　ト　ロ

流行は繰り返すとよくいわれているが，今回は1940年～1950年ごろのレトロとなって現われた。レトロと一口にいっても，過去の良いものと現代をミックスさせた結果で，全然新しさを放棄したわけではない。今までビッグなサンクチュール的なものに流れ，活動的になりすぎた女性を，もっと女らしく，ロマンチックに，良い意味のセクシーなものに返したいという傾向が現われてきたために，クチュールらしい，女の体のシルエットを重要視する型，すなわち，構築的なモードに向かったためと思われる。強調された肩，衿元のV型のカット，フィットしたウエスト，スカートのスリットなど，どのデザイナーにもめだった傾向である。

(1)　強調された肩

肩パッドが全世界を風靡したのは1930年代，第二次大戦の直前だった。日本では終戦後，アメリカ軍女性士官の制服の影響もあってか，ミリタリールックのいかり肩が流行した。第1図は中国旅行でヒントを得た，「パゴダ」と名付けられた肩のカルダンのスーツである。第2図はプリーツの身ごろに，まるで煉瓦を入れたような肩の彼のチュニックスーツである。第3図はウンガロ，森らのドレープで強調した肩である。その他，グレ，シェレル，バルマン，サン・ローラン，ギ・ラロシュらもパッドを入れたり，タック，ギャザーなどで肩を強調している。

(2)　V　ネ　ッ　ク

Vゾーンからのぞく胸元は，セクシーで女らしさがあふれている。今シーズンの特色は，深い鋭角のVカットが，昼の服からソワレまで非常に多いことである。また，ドレス類だけでなく，従来なら当然中にブラウスを着たであろうと思われる一つボタンのVネックのジャケットも，大胆に素肌に着ている。第4図は衿元を深くV型にあけ，裾を丸くカットした巻スカートのカルバンのドレスである。

3)　ウエストマーク

ウエストをフィットさせ，皮のベルトや共布のサッシュで締め，ウエストをさらにマークする着こなしがめだってきた。第5図はウエスト近くまであけたVネックに広幅の皮のサッシュベルトを締め，このしわづけや結び方で種々に雰囲気の変化が楽しめるディオールのドレスである。また，ベルトはコルセット型の非常に幅の広いものから，太い皮ベルトの上にさらに細い金ベルトを締めるというように，2本のベルトの組合せで面白い効果をだしたものなどもある。

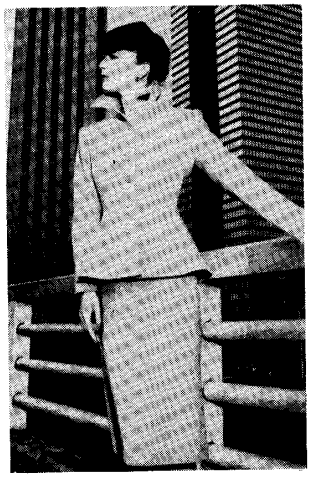
(4)　ペ　プ　ラ　ム

細くフィットしたウエストを強調し，ヒップにかけての女らしい柔らかなシルエットをだすテクニックとして，ペプラムが現われた。細いウエストの下をタック，ギャ

第5図
サッシュベルトのあるドレス[5)]

第6図
ペプラムのあるツーピース[6)]

第7図
美しくフィットしたウエスト[7]



第8図
ペプラムのあるジャケット[8]

第11図
Vカットとスリットのあるマリエ[11]

第12図
ビュスチエドレス[12]

ザー，ダーツ，フレアーなどで広げ，丈も短いものから長いものまでいろいろあり，さらにこの上をベルトやサッシュで締めたデザインが数多くみられる。第6図は長短2枚の柔らかく波打ったペプラムが効果的なギ・ラロシュのツーピースである。第7図はバストからウエスト，ヒップへの広がりに，流れるように美しくシェープした伊藤孝のスーツ。第8図はギャザーのペプラムのある，トマスのアストラカンのジャケットである。

(5) スリット

新しい構築モードは，前シーズンのビッグなモードのデコントラクテな良さを残し，スリムになったシルエットにスリットが多く現われ，これがまた，セクシーな女らしさを強調することにもなっている。スリットの位置は前中心，後中心，脇線などがあり，形は垂直に切れているもの，丸くカットしてあるもの，ボタン止めの打合せ形式のものなどがある。今シーズンはとくに夜の服には，スリットの深いものが多い。第9図はギ・ラロシュの深いVカットと丸いスリットのあるセクシーなソワレである。第10図のオーストリッチのマフがアクセントのパツウのソワレも，思いきり深いスリットがあけてある。第11図はVカットとスリットのあるサリルのマリエである。

2．ビュスチエ

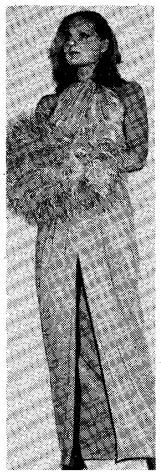
バストの上部を横に通る線，そしてそれがノンストラップの場合は，とくに女性の肩と胸の線を美しくみせる。今シーズンは，夏冬ともにビュスチエドレス，また，ノンストラップの服も多いのがめにつく。アンサンブルで，上にジャケットを羽織る場合でも，下のビュスチエの線は衿元をすっきりとみせる。第12図はワインカラーのスパンコールを一面に刺したビュスチエと，薄いローズグレーの木目ファイユのスカートを組合せたカルダンのソワレである。

3．リボン

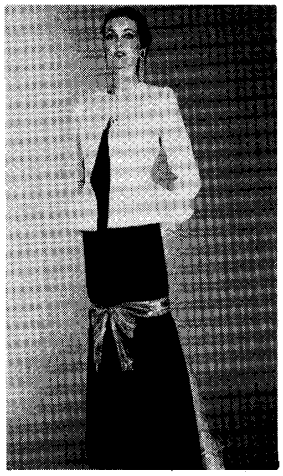
ドレスのアクセントとして，衿元やウエストにリボン

第9図
Vカットとスリットのあるソワレ[9]

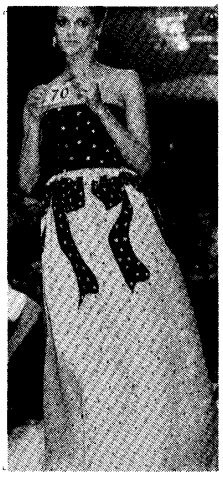
第10図
スリットのあるソワレ[10]



第13図
リボン型の刺しゅうのあるドレス[13]



第14図
パッチワークのリボン[14]



第15図
シースルーのソワレ[15]

を結ぶことはよくあるが，今シーズンめにつくことは，ドレス程もある非常に大きいリボンを結んだり，みせかけのリボンが多いことである。第13図はラインストーンや，金ラメのリボン状の刺しゅうをアクセントにした，ジバンシイのドレスである。第14図はドットの２色使いで，リボン型のパッチワークの効果的なドレスである。その他サン・ローラン，クレージュ，グレ，カルダン，ガロらにも同様の傾向がみられる。

4．シースルー

深いスリットや胸元のＶカットに加えて，カルバン，アンジェロにみられるように，より女性の魅力を強調するためかシースルーが現われてきた。第15図はディオールの薄い青紫色のシースルーのブラウスとボリュームのあるスカートの組合せである。

5．パ　ン　ツ

オートクチュールでは，今までのような太目のパンタロンはあまりめにつかないが，カルダン，ディオール，スプークらは，夜の服にサテンやタフタの細めのパンツを多くみせている。プレタポルテでは，やはり機能的なものが好まれるのか，パンツが非常に多い。第16図はタイツを足首から切取ったようなヒュゾーといわれるチェリー・ミュグレのパンツである。上下続いたコンビネゾンヒュゾーもスペースルックの一つとして，今後も一層多くなるものと思われる。

6．フォルクロール

他民族にとって，神秘的なエキゾチシズムを満足させるフォルクロールは，いつのシーズンにも好んで取入れられる。ディオールのスコットランド風。バルマンのアラブ，サルタン風。フェローのインドとアメリカインディアン風。花井幸子のジンギスカン風などがあげられる。第17図，第18図は森英恵の日本調のドレスである。また，とくにパリでは，ディアギレフのロシアバレエ公演の影響のためか，サン・ローランによって再現された，ピエロのアルルカン柄のドレスや，第19図のようなペトルーシカ風のドレス。ランバンもまた，ロシアのチュニック風スーツなど，カラフルでエキゾチックなフォルクロールの服を創っている。ニューヨークコレクションではラルフ・ローレン，その他のウエスタン調，カーボーイルックがめにつくが，やはりアメリカ人の心を支えるのは，フロンティアスピリットなのであろう。

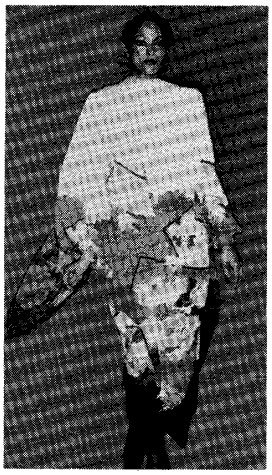
7．色

黒は着こなしの非常に難しい色であるが，多くの人に好まれる色であり，ここにきてまた黒が非常にめにつく。とくにベルベットが多く，ベルベットとサテン，ベルベットとレースなど二つの違った素材の黒の組合せも多い。その他ビビットな色，トルコブルー，ルビー，エメラルド，アメジスト，トパーズなどの宝石の色，また，ワインカラー，ローズグレーのような彩度の低い押えた色も

第16図
ヒュゾー[16]

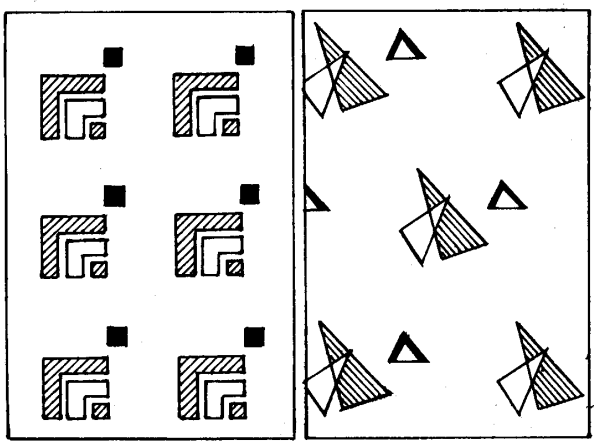
第17図
森英恵の日本調[17]

第18図
森英恵の日本調[18]



第19図
ロシアバレー風ドレス[19]

第20図　ジオメトリックプリント



第21図
グラフィックルック[20]

第22図
金のコードと黒サテンのソワレ[21]

あり，とくにソワレには金色と銀色がめにつく。春夏物においても最も多いのが黒と白で，赤，ブルー，クールなパステルカラーなどもめだつ。前シーズンのニューヨークコレクションは，昼の服には，アースカラーといわれる一連の茶系統の色が大勢を占めていた。しかし，今シーズンには黒，茶，ベージュ，グレーはもちろん，赤，パープル，ローズ，ブルー，グリーン，イエローと非常にカラフルになってきた。

8．柄

チェック，ストライプ，ドットなどは，いつの時代にも好んで用いられる柄であるが，第20図のようなジオメトリックプリント，月や星のスペーシイ柄，レーザー光線プリントも現われてきた。また，第21図のようにシンプルな上台に大胆な切りかえや，はめ込み模様など，グラフィックな傾向もめだってきた。

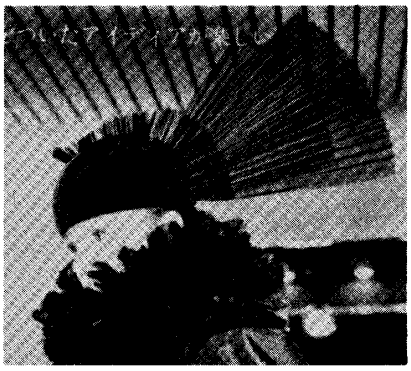
9．素　　材

コートやスーツにクチュール的な美しいシルエットをだすには，どうしても上質のウールを使用するようになり，メルトン，モヘア，ツイード，カシミア，ギャバジンなどが多くなる。その他ファー，レザー，アストラカン，キルテッドナイロン，コーデュロイ，ジャージィなどが多く用いられる。夜の服には，ベルベット，サテン，タフタがめだった。今シーズンとくに多い光る素材としてラメ，ダマスク織，金や銀のコードや玉，ビーズやスパンコールを刺しゅうにした布，若い人の好むディスコ調の夜の服には，光るストレッチなどが多いようである。第22図は金色のコードと玉をつなぎあわせたトップに，黒のサテンを巧みに組合せたパコ・ラバンヌの夜の服である。

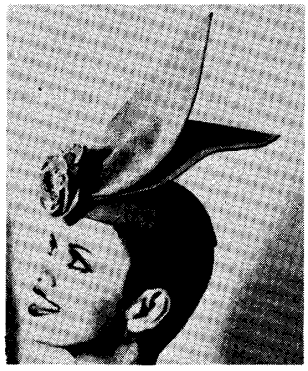
10．帽　　子

モードがシックになると，欠かすことのできないものに帽子があり，今シーズンは帽子や髪飾りが非常に多くなっている。浅いキャップ型のものに羽根やベールを飾ったり，大ぶりで扁平なベレー形式のものが，意外にエレガントな雰囲気を漂わせている。また，大小のトーク，20数年前に日本でも流行したピルボックス型のものも多い。クロッシェ，キャノチエ，夏物にはキャプリンもあるが，全体的に小ぶりなものが多い。この他に第23図，第24図のようなユニークなもの，遊びの要素の強いものもめにつく。

第23図　帽　　子[22]



第24図　帽　　子[24]



Ⅲ むすび

最近のファッション界は，オートクチュールの古い歴史を誇り創造性重視のフランス，伝統に基づいた仕立，素材の良さのイタリア，機能美のアメリカンカジュアルとして世界に影響を与えてきたニューヨーク，歴史は浅くとも，世界的に認められた多くのデザイナーの活躍する日本と，それぞれ国情の差，特色はあるが，お互いに販路を広げ，交流を密にしているため，国による傾向の差は次第になくなってきている。

その一つは，着方によっていろいろと形が変わるビッグのサンクチュールのモードから，構築的なクチュールのモードに変わってきたことである。

また，活動的になりすぎた女性を，女らしくエレガントでセクシーなものに返したいという傾向も現われてきたが，これらをレトロとまとめて考えることもできる。

幅広の肩や，女性の美しい体の線をいかすように，ウエストをフィットして，ベルトやペプラムでこれを強調する形が多くなった。胸を美しくみせるためのVネック。また，ビュスチエがめだち，シースルーまで現われ，アダルトな女らしさを表現する要素が強くなった。

一方，ジオメトリップリント，グラフィックなな切りかえ，スペーシイルックも多くなってきたが，フォルクロールも衰えていない。

色は黒が最もめだち，材質は上質ウール，ベルベット，光る素材，あらゆる色の刺しゅうも盛んに用いられ，帽子も一段とめだつ傾向になってきた。

世界各国が石油危機，公共料金の高騰，電力，ガスなどの使用制限，賃金闘争と暗いイメージの多い中で，世界のモードの主流となるパリ，ローマ，ミラノ，ロンドン，ニューヨーク，東京などの，以上のような最近の動きをみると，いがいに明るく，豪華でさえある。しかし，モードはとまることなく変化し続け，次の新しいモードへと流れ続けてゆく。

引用文献

1) ハイファッション，**4**，P230 (1979)
2) *Mode et Mode*, No.**191**, P117 (1979)
3) *Mode et Mode*, No.**191**, P99 (1979)
4) *Mode et Mode*, No.**187**, P136 (1979)
5) *Mode et Mode*, No.**187**, P61 (1979)
6) ハイファッション，**4**，P223 (1979)
7) *Mode et Mode*, No.**190**, P153 (1979)
8) *Mode et Mode*, No.**189**, P12 (1979)
9) *Mode et Mode*, No.**187**, P51 (1979)
10) *Mode et Mode*, No.**191**, P165 (1979)
11) *Mode et Mode*, No.**188**, P112 (1979)
12) *Mode et Mode*, No.**191**, P106 (1979)
13) *Mode et Mode*, No.**187**, P183, P185 (1979)
14) *Mode et Mode*, No.**187**, P41 (1979)
15) *Mode et Mode*, No.**189**, P132 (1979)
16) ハイファッション，**7**，P30 (1979)
17) *Mode et Mode*, No.**187**, P192 (1979)
18) *Mode et Mode*, No.**184**, P168 (1978)
19) *Mode et Mode*, No.**191**, P45 (1979)
20) *Mode et Mode*, No.**192**, P75 (1979)
21) *Mode et Mode*, No.**191**, P147 (1979)
22) *Mode et Mode*, No.**191**, P32, P36 (1979)
23) ハイファッション，**10** (1979)

参考文献

1) 千村典生：ファッションの歴史，鎌倉書房 (1969)
2) 南静：パリ・モードの200年，文化出版局 (1975)
3) 石川綾子：日本女子洋装の源流と現代への展開 (1968)
4) 石川彰　他：服装辞典，文化出版局 (1979)
5) ハイファッション4，7，10 (1979)

(昭和55年1月21日受理)